

〔報 告〕

昭和47年度赤十字衛生検査技師会総会議事録
要旨

場 所 日本赤十字社食堂

日 時 昭和47年12月16日午後1時

参加者 出席86名、(他に委任状 189通)

総司会 野上 有信(水戸)

議 長 吉岡 稔(武田),根本一蔵(秋田)

書 記 稲葉宏文(奏野),小川義典(津久井)

1) 会長挨拶

中央病院職員の退職に伴う本会事務局役員の後任問題について、東京周辺の幹事を含む緊急幹事会を開催した結果、先きに報じた如く分担することに決定したこと。また、それによつて会誌の発行に遅延をきたしたことなどの説明があり、会員諸氏の一層の協力を願うと挨拶。

2) 一般経過報告(会長)

昨年行なわれた臨床検査技師資格取得に伴う1号アップの実現、赤十字技師会会員の署名運動による嘆願書に対する大分日赤病院長からの感謝文および当該技師の現況。

4月に行なわれた広島日赤での拡大会議での内容説明。一以上会員拍手により賛成。

3) 会計報告(船藤)

46年決算表による内容説明

4) 会計監査報告(田丸,杉山)

厳密な監査の結果、書類、貯金および現金すべて異常を認めなかった。——全員拍手で承認。

5) 事業計画案(会長)

まず予算案(別表)について説明がなされ、48年2月に実施するコントロール・サーベイの実施要領の概略紹介。各地方ブロックの強化、課長会議の開催に関する将来問題、研修会の今後の方向について示した。

質問:コントロール・サーベイの実施には7万円で行けるか。各施設で負担してもよいのではないか。

答:サンプル代として6万円、搬送代はメーカーで負担してもらうつもりである。成績表郵送代を含めても合計7万円で充分である(総務)

質問:今年度の研修会がこういう形式で開催されたこと、遅れた理由は何か。

答:本社との交渉の結果、研修会のあり方について疑義があるので検討せよとの申し入れがあつた。今まで演

題発表の申し込みもなく、本部としては色々検討したところ今回の如く業務運営面のことについての討論会を開くことを提示した。その結果、技師長と課長などによるパネルディスカッションで許可された。

議長提案により予算案およびコントロール、サーベイについて全員拍手によつて賛同。以後研修会の今後のあり方について意見が続出した。

1. ブロック単位で研修会を開き、該当ブロック会員が全員出席できるようにしたらよい。毎年あるいは隔年に1回、業務運営面の問題について全国的な研修会をもつものがよい。

2. 同じ日赤同志という親密感の中で討論することに意義がみいだされる。日衛技の会よりも効果は大であるからこのまま続行したらよい。

3. 各施設によつて出張細則が違うようであるが頻回の開催を望む。

4. 研修会への出席は病院の利益にも継がることが多い。この点技師会から各病院にPRしてもらいたい。

5. 著名な講師による研修会をこのまま継続してもらいたい。

6. 本会は無資格者でも出席できる点に特長がある。

7. コントロール・サーベイについては各検査項目全般に亘つて、細分して、これからも続行すべきである。

会長発言(補足)

今回のコントロール・サーベイ実施にあつて、本社にサンプル代を要求したが予算決定後であつたので無理と解答された。また、会のあり方については、今後、本部で会員の意見を充分とり入れて検討して行きたいと説明。

会則改正案(会長)

第1条 本会の事務所を会長の所在する施設検査部内に置く。

第16条 総会開催時期と会計年度に相当のずれがあるので、予算発表時期とも照合して48年度からは8月1日から翌年7月31日までとする。

附則第4条 本会の会費も少なく、収入も限定されているので、賛助会員制度を設ける。

その他:斉藤前会長の退職に伴ない特別会員として推薦したい。また、田中顧問の辞任に伴ない、後任として河合忠先生(日大臨床病理)を推選したい旨の説明がな

された。

以上、全員の拍手で承認された。

役員改選の件について上提され、別表の通り承認された。(瀬古治良記)

日本赤十字衛生検査技師会東北ブロックの結成について

幹事 秋田赤十字病院 根本 一蔵

各地区毎にブロックの結成を呼びかけられておりましたが、東北地区でも本年7月22日秋田市に於て結成協議会を開催致しました。会合は極めて和やかに進められ、会則も別紙の通り承認されました。

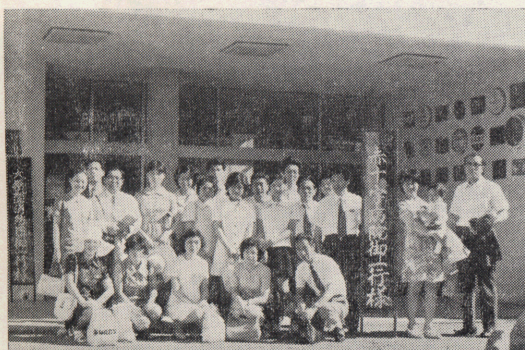
このブロックの結成を契機に細胞診の研修会を計画致しました。本研修会には講師として、千葉県立癌研究所研究局長田中昇博士、同じく細胞診室主任池田栄雄先生が出席されました。また、前日赤技師会長斉藤誠二先生、現会長鈴木兼五郎先生も御出席下さいました。

東北地区からは盛岡日赤宇方課長、鈴木係長、八戸日赤山田課長他二名、石巻日赤津野課長、秋田日赤検査科員22名が参加致しまして盛会でした。

尚、本研修会は秋田県衛生検査技師会並に東北細胞診学会と共催しまして、東北6県の各施設より参加され、その人員も100余名を数える大規模のものとなりました。顕微鏡も最新型のもの30台を準備し、実技を主とした研修で実りのあるものでした。

協議会に先立つて男鹿観光を計画致しました。途中、八郎潟干拓地を縦断してその雄大な景観をおめにかかけました。盛夏の一日、観光に、親睦に友情を深めたことも有意義であつたことと感じております。

今回は盛岡赤十字病院の担当で開催の予定であります。以上簡単に東北ブロックの結成を報告致しました。



東北赤十字臨床検査技師会(仮称)結成協議会並細胞診研修会開催日程表

1) 7月22日午前10時

秋田赤十字病院臨床病理部 } 見学
秋田赤十字血液センター }

2) 7月22日午後1時男鹿観光出発

3) 7月22日午後5時～6時

東北赤十字臨床検査技師会(仮称)結成協議会
於て 男鹿温泉郷 旅館:萬盛閣 TEL北浦
3161

4) 7月22日6時懇親会 宿泊

5) 7月23日細胞診研修会(秋田県衛生検査技師会、
東北細胞診学会と共催)

自9時30分～至16時30分

場所 秋田駅前ニュータケヤ三階ホール

講師 前日赤中央病院検査部長 田中 昇博士
日赤中央病院細胞診室主任技師 池田 栄雄先生

日本赤十字衛生検査技師会 東北ブロック会則

第1条(目的) この会は東北六県の赤十字施設に勤務している職員で、臨床検査に従事している者の検査技術の研さんに努め、あわせて相互の親睦を図ることを目的とし、

(名称) 日本赤十字衛生検査技師会東北ブロックと称する。

第2条(役員) この会に会長他所要の役員を置く。

第3条(事業) この会の目的達成のため年1回以上研修会を開催する。

第3回関東ブロック会に参加して

葛飾日赤 堀切 浩

昨年度は臨床検査技師の指定講習会やら国家試験のため取り止めになつていた関東ブロック会が雨上りの9月9日、東京YMCAの一室で開催された。蒸し暑い土曜の午後、定刻より10分遅れて会場に着くと、国際試業の生垣博士の講演は既に始まつていた。

今回のテーマは Au 抗原と α -Fetoprotein についてという、時代に即応した表題であつた。

Au 抗原の物理化学的性状から、他の検査結果を含めた病態の推移へと、話が臨床面に進むにつれ、会員一同熱心に耳を傾けた。特に興味深く感じられたのは、ウイルス性肝炎を発症した妊婦が Au 抗原陽性時に分娩した場合に、経胎盤感染によりその児が Au 抗原陽性とな

り、その後、児の肝機能に如何なる変化が認められるかである。新産児ないし小児のウイルス性肝炎では無黄疸、無症状で経過することが多いといわれており、いつの時点でAu抗原が陰転化するかということである。

Au抗原陽性の肝炎がその経過中、全く肝機能障害を起こすことなく、長期間経て陰転化するのか、長期に亘る観察と症例の積重ねが必要であろう。感染経路として考えられるのは上述の経胎盤感染、出産時の経口感染（母親の血液や糞）、産後の経口感染（母親の非衛生的な手指や母乳）などであるが、その各々の感染経路を立証するのは難しい問題である。

次にAu抗原検出法の優劣、Au抗体産生時期などについて説明がなされた。講演中にカセット式電気泳動装置によるAu抗原陽性パターンの供覧が行なわれた。電気泳動法における陽性パターンでは、高脂血症患者血清や食後の乳び血清で時々、陽性像とまぎらわしい沈降輪様パターンがみられることがあり、拡散法などで確認する必要がある。

続いて最近注目されている原発性肝癌の患者の70～80%前後に認められるという、 α -Fetoprotein についての総論的な説明が加えられた。物理化学的性状に関しては本邦では、北大の平井教授による研究で周知のところであるが、本疾患と他疾患における陽性頻度、肝硬変との関係など、その病態生化学に触れられ、本検査の臨床的意義を再確認した次第である。原発性肝癌の患者血清中に何故胎児性蛋白が出現するか、単なる肝における細胞変化のみであるか、色々と論議検討されるべき問題を含んでいる。生理的には新産児の血清中に、正常で1 mg/dl

前後存在し、生後3～7日で消失するといわれている。胎生期では25～29週前後に300 mg/dlにも及ぶピークがみられ、在胎週が進むにつれて減少する。一方、胎児のアルブミン濃度は漸増する。これらの関係からみると、本検査の定量化は新産児の成熟度を計る一指標となるものであろう。

最後に、凝固法に基づいたフィブリノーゲン定量法について、シェーマによる概略が説明された。講演終了は定刻を約30分過ぎていたが、生垣博士のエネルギーッショな口演に会員諸氏は圧倒され、眠気を催すことなく熱心に聴き入っていた。このようなテーマと良き講演者を選ばれた会長に敬意を表したい。

同じ場所でひきつづいて関東ブロック会議が吉岡稔（成田）、野上有信（水戸）、鈴木会長を中心に始められた。まず大分日赤、藤田氏の現況説明があり、事件の渦中にある同氏へ激励文の依頼があつた。討論に入ると、臨床検査技師となつてから、採血について各施設間で相当の開きがあると結論づけられ、今後の検査室運営上、重要な問題であるので全国的にアンケート形式で調査しようということになつた。そのアンケートの内容に追加として、生理検査の実施者、人事採用権の所在、出張制度の確立、休日出勤の問題、技師会などの会費負担者の問題などが採択された。

また、今後関東ブロック会の開催地を当番制にして、関東地方内を移動しようということで全員意見の一致をみた。

会議終了後、国際試薬の御好意により、生垣博士を囲んで懇親会が開かれた。

（参加26名）